
忘れられない男

しょうがない人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れられない男

【Nコード】

N5352D

【作者名】

しょうがない人

【あらすじ】

小説とよべないと思います……。ある男の短い一人語り。

君は牛乳のようだ。

確かに君の身体はホルスタインのように肉欲的であつたけども、そうじゃない。

ぬるい牛乳は喉がカラカラの時にはあまり適さない。

口の中に残るねっとりとした感覚が火照つた身体には心地悪い。

みんな風呂上りに瓶牛乳を飲むけれどあれだって本当はそんなに旨いもんじゃない、

只なんとなく雰囲気飲んでるものだから。

君が牛乳のようなのは他に理由があるんだ。

それはなんだか上手くいえないけど、例えば君の色白な身体は牛乳の白さと同じ、

口に入れるまでもなく軟らかさが伝わる白さ。

いや、違う。そうじゃない。僕が言いたいのは君の身体じゃないんだ。

もっとう、なんて言うか、全体的なイメージの話。

牛乳の持つ健康的だけどこかエロスな感じに近いというか、火照つた身体には

心地悪いねっとりとした感じが君の身体に近いというか。

いや違うんだ。そうじゃない。ほんとにそんなつもりじゃない、僕が君に伝えたかったのはこんなことじゃないんだ。

そう！どちらかといえば君は卵だ、牛乳よりも卵に近い。

硬い殻は真っ白でサラサラでツルツルして、誰も手をかけることが出来ない頑なな表面。仕事中の毅然とした君の態度そのものだ。ほら、身体じゃないだろ。

殻の中は僕を包んでくれた、形があるようで無くてあやふやにだけど確かに君は包んでくれた、それが白身。ほらね。

そして君の中にある本当の部分オレンジで一番濃い黄身の部分、裸になって抱き合って確かめる君の本性。ねっとりとした君が普段かくしている部分、誰にも悟られないようにしている僕だけが知っているキミの部分。

ごめん誤解しないでくれ、僕は決していやらしい気持でこんなことを君に言っているんじゃない。

ああ、待つて！電話を切らないで、ホントにそんなつもりじゃないんだよ。

ほんとうにごめん。只君が僕だけのものだった日々があまりにステキでそれを伝えたくて。

そりゃ世間的には君は彼のものだったけどその時の君は紛れもなく僕のものだった。

僕にとって君は大事なものだからそれを伝えたくて、君が完全に彼のモノになったとしても君の本当の味を知っているのは僕だけ。君といった日々はぬるい牛乳みたいに口に入れたときに甘さが広がって、卵みたいに包んでくれたその甘さがあまりに君に似てたから、只それだけなんだ。

（後書き）

ありがとうございました。そしてごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5352d/>

忘れられない男

2010年12月12日20時48分発行